

## がん診療連携拠点病院等推薦意見書【千葉県】

### 1 千葉県の現状

千葉県は、高齢化率が上昇を続け、令和7年には30.0%、令和17年には33.5%と約3人に1人が65歳以上となり、令和17年には本県の高齢化率が初めて全国平均を上回ると見込まれています。

また、平成27年から令和7年までの65歳以上の高齢者人口の増加率は全国第5位、75歳以上の後期高齢者人口の増加率は全国第1位となることを見込まれています。

本県の悪性新生物（がん）による死亡者数は、昭和57年以来死亡順位の第1位であり、平成30年のがん死亡者数は16,989人と、全死亡者数の約3割を占めています。

急速な高齢化が進行している本県では、今後さらにがん患者が増加していくと見込まれ、がん対策の取組は重要な課題となっています。

### 2 千葉県のがん医療提供体制

#### (1) がん診療連携拠点病院等の位置付け

「千葉県保健医療計画」では、「循環型地域医療連携システム」構築のため、がん医療分野の中核的機関としてがん診療連携拠点病院等を位置付けております。

全ての県民に質の高いがん医療へのアクセスを確保するため、平成20年度策定の「千葉県がん対策推進計画」より、二次医療圏に1カ所を基本に、一定人口規模（概ね人口50万人程度）を単位に、がん診療連携拠点病院等を設置することを基本方針とし、がん診療連携拠点病院等の整備を進めてきました。

併せて、本県独自の取組としては、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受けている千葉県がんセンターに加えて、特定機能病院である千葉大学医学部附属病院、高度先進的ながん医療を提供する国立がん研究センター東病院とQST病院の4病院を、「全県（複数圏域）対応型がん診療連携拠点」として、また、がん診療連携拠点病院等を補完する医療機関を「千葉県がん診療連携協力病院」として位置付け、ネットワークの構築及びがん医療水準の向上・均てん化に取り組んでいます。

#### (2) がん診療連携拠点病院等の整備状況

都道府県がん診療連携拠点病院である千葉県がんセンターは、県内で中心的な役割を果たし、専門的ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療の連携協力体制の整備やがんに関する相談支援情報の提供を担っています。

また、本県は9の二次医療圏で構成され、8の二次医療圏において12の地域がん診療連携拠点病院が指定され、山武長生夷隅医療圏において1の地域がん診療病院があり、各病院は、地域のがん医療の拠点として、自ら専門的な医療を行うと

もに、各部位のがん対応医療機関やかかりつけ医等との連携、医療従事者の研修、相談支援等の役割を担っています。

### 3 地域連携に関する基本的な考え方

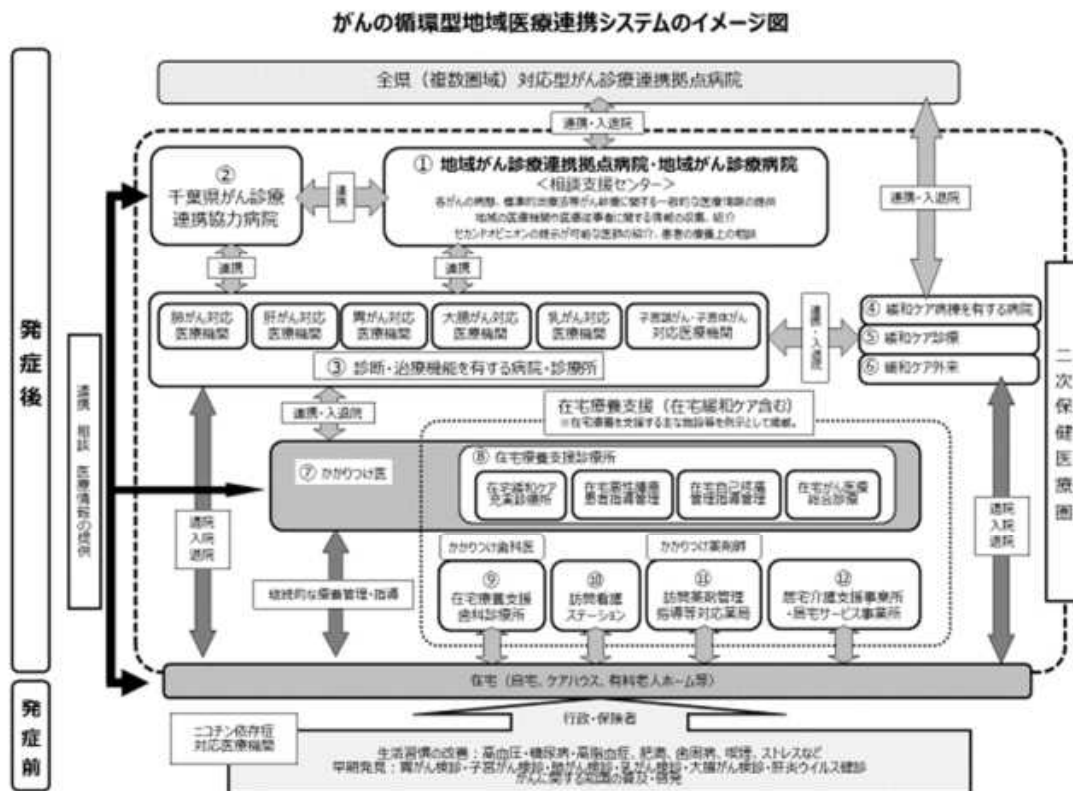
#### (1) 循環型地域医療連携システムの構築

「千葉県保健医療計画」の中で、本県が目指す「循環型地域医療連携システム」構築におけるがん医療分野の中核的機関として、がん診療連携拠点病院等を位置付けています。

この「循環型地域医療連携システム」による連携を円滑に進めるためのツールとして、全県共用型の地域連携パスである「千葉県共用地域医療連携パス（例示モデル）」を千葉県医師会、関係病院等と協働して作成し、運用しています。

がんの千葉県共用地域医療連携パスについては、がん診療連携拠点病院等と千葉県がん診療連携協力病院が参加する千葉県がん診療連携協議会の地域連携クリティカルパス・臓器別腫瘍専門部会において、胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん、子宮がん、前立腺がんの7つの部会で作成をしています。

#### 【がんの循環型地域医療連携システム】



## (2) がん診療連携拠点病院間の連携

がん診療連携拠点病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である千葉県がんセンターが中心となり、地域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院のほか、国立がん研究センター東病院、千葉県こども病院、QST病院、医師会等をメンバーとして加え、がん診療連携協議会を設置しています。

協議会は、教育研修専門部会、院内がん登録専門部会、相談支援専門部会、緩和医療専門部会、地域連携クリティカルパス・臓器別腫瘍専門部会及びPDCAサイクル専門部会の6つの専門部会で組織されています。また、その専門部会の中にも下記のように部会を設置し、連携を図っています。

千葉県における「都道府県がん診療連携協議会」の体制



## 4 がん診療連携拠点病院等の推薦について

千葉県としては、今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院等の確保は必須であると考えています。平成31年4月から1年間に限り指定の更新を受けている地域がん診療連携拠点病院6病院及び地域がん診療病院1病院については、本県のがん医療の均てん化及びがん診療の連携協力体制の整備において必要であることから、引続き、指定更新を推薦します。

また、高度型の指定要件を充足していると認められる病院を地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、東葛南部医療圏から船橋市立医療センターを、香取海匠医療圏から旭中央病院を推薦します。

### (1) 既指定病院の更新推薦について

#### ①地域がん診療連携拠点病院

##### ア 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター（千葉医療圏）

独立行政法人国立病院機構千葉医療センターは、28診療科を有する総合病院であり、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院等の指定

を受けています。地域医療に貢献すべく、救急患者、紹介患者の受け入れを積極的に行っています。

がん医療の特徴としては、手術、放射線治療及び薬物療法など、総合的な治療を行い、高度急性期及び急性期機能を発揮しています。また、がん診療連携拠点病院としての機能の充実を図るため、平成31年1月から緩和ケア病棟を開設しました。

総合病院としての強みを活かし、5大がんを含むがん診療を幅広く行っています。

なお、要件の充足状況については、必須要件である医療安全管理者の研修会の受講について、医療安全管理者の内、医師が医療安全に係る研修を受講中であり、充足しておりません。当該医師は救急部長を兼ねており、連続して病院を離れる必要のある研修を受講することができないため、日本医師会主催の医療安全推進者養成講座（全9教科）を平成31年4月から受講を開始し、令和元年9月時点で第5教科まで受講が完了しています。当講座は令和2年1月末で修了し、令和2年3月までに修了証が発行される予定となっています。当センターの状況を鑑み、要件充足に向けて取り組んでいることや、他の要件は充足していることから、引き続き地域がん診療連携拠点病院として推薦します。本件については、当センターから別添のとおり届出がありましたので、併せて提出します。

#### イ 東京歯科大学市川総合病院（東葛南部医療圏）

東京歯科大学市川総合病院は、地域医療支援病院、地域災害拠点病院として、地域の中核的な役割を果たしている総合病院です。

がん医療の特徴としては、26の診療科があり、多くの専門医が所属していることで、5大がんはもとより幅広いがんに対する手術、薬物療法及び放射線治療に対応しています。令和元年6月には放射線治療装置を更新し、トモセラピーでは、IMRTや定位放射線治療等の高精度放射線治療の提供が可能となりました。

特に母体が歯科大学であるため、口腔がんについては、多くの患者の受け入れを行っています。また、周術期の口腔ケアなどを含む歯科医療を提供しています。

#### ウ 順天堂大学医学部附属浦安病院（東葛南部医療圏）

順天堂大学医学部附属浦安病院は、浦安市を中心とした地域の基幹病院かつ高度な医療を担う大学病院であり、三次救命救急センターや地域災害拠点病院として、ラピッドカーの運用やDMAT等、災害医療体制の整備や医療支援活動に注力しています。また、全県型急性心筋梗塞や脳卒中連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域周産期母子医療センター、難病医療協力病院等の指定を受け、地域の医療に貢献しています。

がん医療の特徴としては、診断から手術・薬物療法・放射線療法、緩和ケアや終末期まで、全てのがん幅広く対応しています。平成27年に設置したプロダ

クシオンセンターでは、AYA世代がん患者に対する妊孕性温存のため、精子、未受精卵、卵巣組織等の凍結を平成30年度は約10件行いました。平成28年には強度変調放射線治療装置（IMRT）を導入し、安全かつ精度の高い放射線治療を提供しています。県内の他のがん診療連携拠点病院と比較して、40～45歳女性の件数が多く、婦人科がんは当該医療圏内の約4割を占める患者を対応しています。

さらに、就労支援に積極的に取り組んでおり、社会保険労務士とファイナンシャルプランナーによる個別相談会を毎月実施し、就労継続や職場復帰に関することや、障害年金に関する相談に対応しています。多職種の協働によるがん患者サロンを年6回実施し、そのうちの3回は千葉県地域統括相談支援センターとの共催で、「ピア・サポーターズサロンちば」を開催しています。

## エ 松戸市立総合医療センター（東葛北部医療圏）

松戸市立総合医療センターは、五大がんのみならず、血液がんや婦人科・泌尿器系がんにも対応しています。化学療法内科においては、他院で治療困難と言われても治療継続を希望する患者の受入れを行っており、他施設とも連携を取りながら難治がんの治療にも積極的に取り組んでいます。また、医師会が在宅医療に力を入れており、医師会との連携により二人主治医制を推進しています。

がん医療の特徴としては、移転した際、新たな放射線治療装置を導入し、より質の高い腫瘍治療が望めるようになり、骨転移等の除痛目的の緩和治療も行っています。

緩和ケアについては、同一開設母体の福祉医療センター東松戸病院や近隣の病院の緩和ケア病棟、地域の在宅医療機関へ紹介を行っています。診断や集中的な治療は当病院で行い、在宅医療に移行した後も急変時のフォローは当病院で行うなど、住み慣れた地域でのがん診療の完結が可能となっています。

## オ 亀田総合病院（安房医療圏）

亀田総合病院は、安房医療圏の基幹病院として、急性期医療から在宅医療に至るまで、地域のニーズに合わせた医療を提供しています。

がん医療の特徴としては、手術療法、薬物療法、放射線治療等を行っており、地域の医療機関から、患者の受け入れを行っている。がんに関しては、がん治療に特化した施設を設置し、チーム医療を安心して受けられる環境を整備しています。

また、安房医療圏及び隣接した医療圏を対象に、院外医療従事者対象勉強会として、看護勉強会を開催しています。内容等については事前調査を行う等、ニーズに合わせたものとしています。さらに、がん教育については、小・中・高等学校を対象とした講演会を開催し、がんに対する正しい知識の普及啓発を行っています。

## カ 千葉労災病院（市原医療圏）

千葉労災病院は、市原医療圏において高機能な急性期病院として、地域の回復期や慢性期を担う病院等との機能分担を進め、さらなる連携強化に努めており、中核的な役割を担っています。

がん医療は、一部のがんを除き、専門医による対応が可能であり、特に我が国に多いがんについては、疾患別カンファレンスを開催し、患者さんにとって最適ながん治療を提供できる体制を整備しています。治療が困難な場合には、院内で症例検討等を行った上で、専門治療が可能な他の医療機関と連携し、紹介等を行っています。

また、アスベスト関連疾患である肺がんや胸膜中皮腫への対応も可能であり、平成17年からアスベスト関連疾患に係る健康診断、治療、症例収集及び他の医療機関等への支援活動を目的とした県内唯一のアスベスト疾患センターを設置しています。当センターでは、他のがん診療連携拠点病院からの紹介も受け入れています。

さらに、平成26年度からは、労働者健康安全機構が実施する「がんに関する治療就労両立支援事業」に参画し、就労に関する相談において、より充実したものとなるよう両立支援コーディネーターを配置し、取り組んでいます。

## ② 地域がん診療病院

### ア さんむ医療センター（山武長生夷隅医療圏）

地域がん診療病院であるさんむ医療センターは、放射線治療を必要としない胃がん、大腸がんをはじめとする消化器がんの治療については、同病院を中心として圏域内で完結できる体制を整備しています。特に消化器がんの鏡視下手術は盛んであり（30年77症例）、外来化学療法室も3床を配置しています（30年度外来化学療法延べ406回）。

他の医療圏の拠点病院からの緩和ケア患者の受け入れも積極的に行っており、緩和ケア外来を通して緩和ケア病棟への転院、在宅療養の支援を行っています（緩和ケア外来30年度新規患者数218件）。

また、同病院では緩和ケア外来、訪問看護ステーション、緩和ケア病棟を一体的に運営しています。緩和ケア病棟は在宅患者の後方支援を24時間365日行っており、訪問看護、訪問診療との連携により地域の緩和ケア対象患者をシームレスに支えてゆくことが可能となっています。

同病院は、千葉県がんセンターと総合病院国保旭中央病院とのグループ指定により、地域住民に適切な治療の情報を速やかに提供でき、利便性の高い診療体制の選択が可能となっています。

## (2) 地域がん診療連携拠点病院（高度型）の推薦について

### ①船橋市立医療センター（東葛南部医療圏）

船橋市立医療センターは、がん診療と救急医療を中心とした高度急性期病院として DPC 特定病院群に選ばれ、東葛南部医療圏の基幹病院となっています。地域医療支援病院に指定されており、地域の多数の医療機関と連携しつつ診療を行っています。

放射線治療医、放射線診断医、腫瘍内科医、病理医の常勤医が揃っており、5 大がんについてはカンサーボードを行い、集学的治療を積極的に行っています。平成30年10月より、放射線治療医2名を配置し、IMRT（強度変調放射線治療）を実施しています。

緩和ケア病棟を20床有し、令和元年9月より緩和ケアセンターを整備し、患者やその家族に対し、がんに伴う身体的、精神的苦痛等の症状に焦点をあてた治療、ケアを専門に行っています。近隣の医療機関からの患者の受入を行っており、在宅緩和ケアのバックアップ病棟として地域連携を図っています。

### ②旭中央病院（香取海匝医療圏）

旭中央病院は、香取海匝医療圏の中核病院であり、五大がんについて、手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、患者の状態に応じた適切な治療を実施しています。

平成29年3月には地域医療支援病院として承認を受けており、1,251施設の医療機関との「紹介」「逆紹介」を通じて二人主治医制を推進し、効率的な医療提供体制の構築を図っています。地域の医療従事者との交流を深めるため、地域医療者医師懇談会を年2回開催しています。また、東総がんフォーラム等の地域の医療従事者を対象としたがんに関する研修会を平成30年度は15回開催し、837名の参加がありました。市民健康講座も開催しており、平成30年度は576名の参加がありました。

がん診療の特徴としては、平成25年からダ・ヴィンチを導入し、ロボット支援腹腔鏡手術を行っており、手術件数は年々増加し、平成30年度は74件でした。また、平成26年からIMRTによる放射線治療を実施しており、治療件数は年々増加し、平成30年度は3,345件と、高度ながん医療提供体制を整備しています。

## 5 がん診療連携拠点病院等の推薦過程

### ○ 指定要件の充足状況の確認

新規指定となる2医療機関及び指定更新となる7医療機関について、指定更新に向けて現況報告書により書類審査を行い、指定要件を満たしていることを確認しました。

○ 千葉県がん対策審議会における検討

医師・学識経験者等で構成される千葉県がん対策審議会において、がん診療連携拠点病院等の指定要件の充足状況等を説明し、指定更新及び新規指定についてふさわしい病院であることを確認し推薦を決定しました。